橋北中だより

No.19

令和３年１月12日

BRIDGE ～あの橋をわたるとき～

橋北中 HP

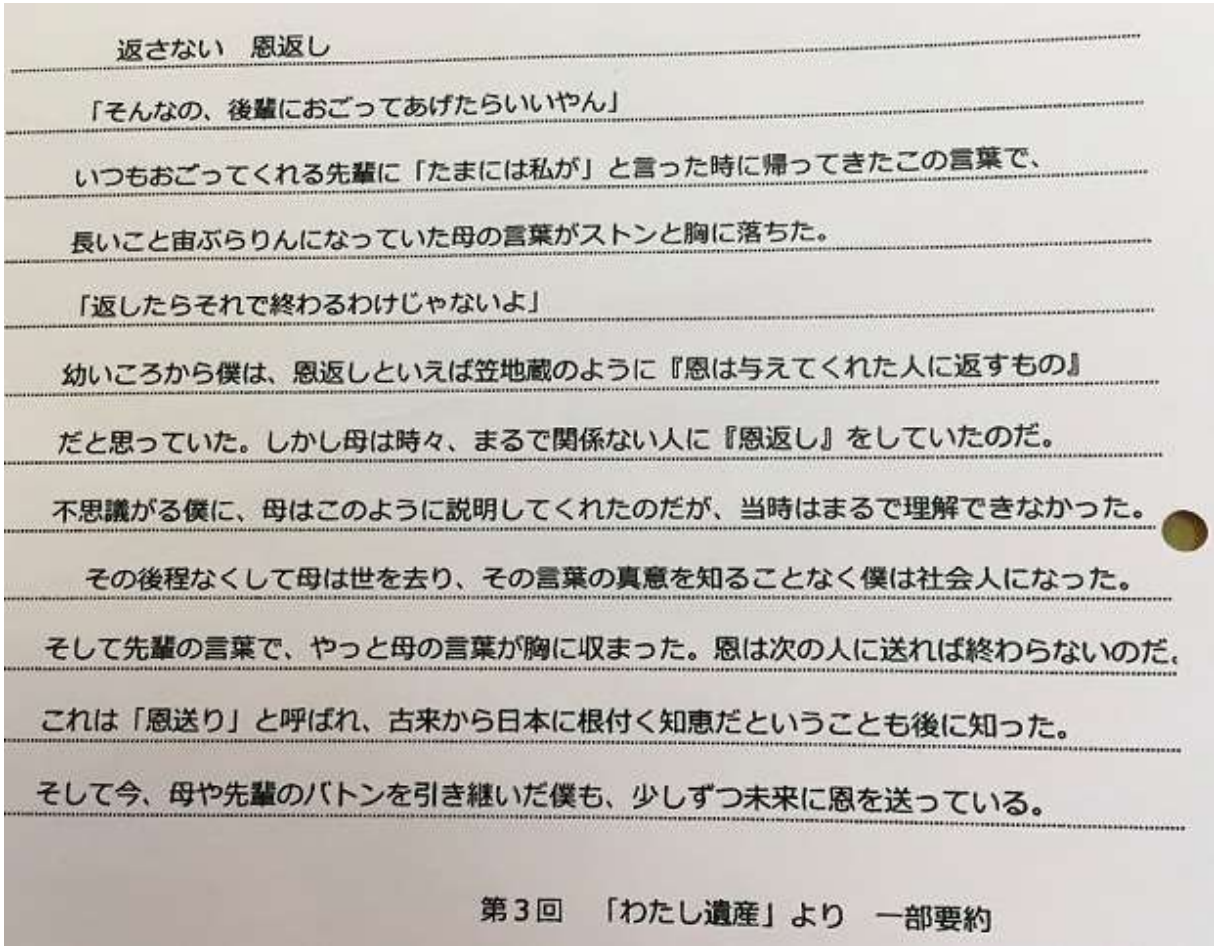
新しい年を迎え，新しい気持ちでスタートを切る。



「ありがとう」があふれる学校に

新学期を迎え，みなさんに力を貸してほしいことがあります。それは，「恩送り」です。

「恩返し」ではなく，「恩送り」・・・。みなさんは，「恩送り」って知っていますか？



返さない　恩返し

「そんなの、後輩におごってあげたらいいやん」

いつもおごってくれる先輩に「たまには私が」と言った時に帰ってきたこの言葉で、

長いこと宙ぶらりんになっていた母の言葉がストンと胸に落ちた。

「返したらそれで終わるわけじゃないよ」

幼いころから僕は、恩返しといえば笠地蔵のように『恩は与えてくれた人に返すもの』

だと思っていた。しかし母は時々、まるで関係ない人に『恩返し』をしていたのだ。

不思議がる僕に、母はこのように説明してくれたのだが、当時はまるで理解できなかった。

その後程なくして母は世を去り、その言葉の真意を知ることなく僕は社会人になった。

そして先輩の言葉で、やっと母の言葉が胸に収まった。恩は次の人に送れば終わらないのだ。

これは「恩送り」と呼ばれ、古来から日本に根付く知恵だということも後に知った。

そして今、母や先輩のバトンを引き継いだ僕も、少しずつ未来に恩を送っている。

第３回　「わたし遺産」より　一部要約

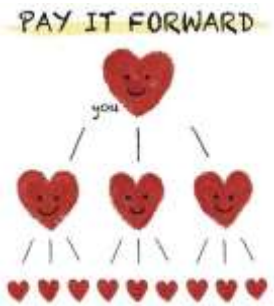
中学生の皆さんも，先輩や友達に助けてもらったり，親切にしてもらったりするでしょう。その時，うれしかった気持ちを思い出して，今度は私が別の友達や後輩を助ける。これが「恩送り」です。

助けられた，手伝ってもらったことに感謝をするだけではなく，その行為を別の人に返していく・・・それがどんどんつながっていけば，橋北中は，とてもいい学校になると思いませんか。

橋北中だより №17 で「ありがとう」について書きました。覚えていますか？人は，当たり前のよう

に誰かの世話になっている。あまりにも当たり前のため，感謝の気持ちを言葉にしていないことがある。だから，何かをしてもらったら「ありがとう！」と言葉で伝えよう…という話でした。

やっぱり，「ありがとう」があふれる学校になると素敵だと思うのです。



そこで，「ありがとうリレー」から始めてはどうでしょうか。

「ありがとうのバトン」を自分のところで止めないで，別の人に渡す・・・。これもひとつの「恩送り」です。まずは，クラスの中から始めませんか。ありがとうのリレーが学校中で広まる・・・・学校が「ありがとう」であふれたら，橋北中は，また一段と輝きだします。これは大きな学校では，なかなかできないことかもしれません。でも橋北中なら，たかが３クラス。やる気にになったら，すぐにできることと思うのです。要は，みなさんの気持ち次第なのです。

橋北中で学んだ，「恩送り」の精神を卒業生が町中で発揮していけば，橋北は日本一の町になります。先輩から後輩へ，親の世代から子の世代へ，未来にむかって恩を送っていく。そんな町づくりのためにも，まずは，橋北中を「ありがとう」でいっぱいにしましょう。

ああ，なんのために学ぶのか

３学期を迎えました。３年生にとっては義務教育最後の，そして仕上げの学期となります。

そこで，橋北中でのキャリア学習の集大成として，「なんで勉強するのか。」に対しての一つの答えを提示します。当たり前のことに感謝するにも通じる深い話です。

朝がくると

まど・みちお

朝がくると　とび起きて
ぼくが作ったのでもない
水道で顔をあらうと
ぼくが作ったのでもない
洋服を　きて
ぼくが作ったのでもない
ごはんを　むしゃむしゃたべる
それから　ぼくが作ったのでもない
本やノートを
ぼくが作ったのでもない
ランドセルに　つめて
せなかに　しょって
さて　ぼくが作ったのでもない
靴を　はくと
たったか　たったか　でかけていく
ぼくが作ったのでもない
道路を
ぼくが作ったのでもない
学校へと
ああ　なんのために
いまに　おとなになったなら
ぼくだって　ぼくだって
なにかを　作ることが
できるように　なるために

みんな「ぼくが作ったものではない」ものを利用しながら生活をしている。中学生は，世の中の世話になりながら生きている。しかし，見て，聞いて，遊んで，勉強していくうちに…。いずれみなさんも世の中のためになることで，収入を得て生活を営むようになる。



そして，それが次の世代の若者への恩送りになる。

３学期もいっぱい学ぼう！いつの日か「恩送り」をする時のためにも。